



県立美術館収蔵品から「蚊帳脇美人図」竹田春信作 掛幅 紙本着色 一〇二・三×五〇・三 糶

蚊帳の外に半ば身を出した美人は、文机に肘をつき、したためた文を読み返して、しばらく思いをめぐらしているであろう。髪を解き、文字を散らした小袖にしごき帯を前結びにしただけの装いである。机の上の料紙には、「待より□□のこそ□□うさあはれくものしらぬ人にしらせとふをもふのみそれとてもこひしさのいと」と記されているから、さて、続きをどう書き綴るか迷っているところを画家は描こうとしたのであろう。

署名の「梅翁軒春信」は竹田春信のことで、梅翁軒永春が正徳年間に号したものとされ、衣裳からもその時代と推測される。懐月堂派の影響も指摘される画家であるが、この作品は優しく気品ある女性を描いて繊細な感覚を見せている佳作である。(美術専門員/阿蘇品保夫)



ホストファミリーの優しさに感激 4Hクラブの農業交流



「日本の農業はとて進んでいますね」と李商宰さん



「夢は農場を大きくすること」と崔雲宰さん

九十三年度韓国忠清南道4H会員の熊本県訪問研修が六月八日より二泊三日で行われました。三十七名の参加者の中から天水町の坂門聡一さん(二八)宅に民泊した崔雲宰さん(二九)と李商宰さん(二九)を取材しました。

●日本の農業の技術を習得したい

坂門さんのビニールハウスで崔さん、李さんの農業体験が行われました。天

水町4Hクラブの会員も十一名参加して、肥料散布と畝作りです。初めは黙々と作業をしていた4Hクラブの会員ですが、聡一さんに促され、身振り手振りで崔さんにトラクターの使い方を教えています。「日本の若者は誠実な人ばかり。そしてお互いに助け合っていますね」と崔さん。韓国ではビニールハウスで白菜を栽培している李さんは真剣な表情でロータリーを扱っています。「韓国人も働き者ですが、日本人もよく働きますね」と、李さんは驚いていました。

●家族ぐるみで国際交流

坂門さん一家の韓国人の受け入れは今回で五回目。「二回目は大変でした。私自身は韓国を訪問したことがあり慣れていましたが、回りがびびりしちやうです。ですが、こわがっていても夕



4Hクラブのみなさん国際交流が深まります(むつみ荘にて交流会)

※4Hクラブとは、若い農業後継者で組織されたグループです。

メ。努力する姿勢に意味があるんです」と、聡一さん。トイレに韓国語の紙を貼って家族で韓国語に親しむ工夫もしています。長男の駿介くん(二)は崔さんに韓国の絵本を読んでもらってごきげんです。チャンスがあったら、また日本に来ますかと言う質問に「예(ハイ)」と元氣よく答えてくれた李さんの笑顔が印象的でした。



楽しい食事のひととき(左より、坂門さん、妻のさとみさん、駿介くん、崔さん、李さん)